

## 第6回DHCシンポジウム報告

『街づくりと地域冷暖房—都市再生への地域冷暖房の役割』

平成11年11月24日(水)東京国際フォーラム会議室において当協会主催による「第6回DHCシンポジウム」が建設省の後援、(社)日本熱供給事業協会の協賛を得て、約200名の参加者のもと盛大に開催された。

本シンポジウムは平成6年第1回開催以来、毎年開催しているもので今年で6回目を迎える。本年は二酸化炭素等の温室効果ガスの総排出量規制が決定したことを受け、新エネルギー、再生可能エネルギーの導入等を強力に推進していくこと、また、21世紀を間近に控えこれからの街づくりにどう地域冷暖房が関与していくかを『街づくりと地域冷暖房—都市再生への地域冷暖房の役割』と題して基調講演、一般講演が行われ、その後都市再開発における熱供給ネットワークの事例紹介が行われた。

佐藤友彦協会副理事長による開会の辞の後、基調講演として東京大学名誉教授・慶應義塾大学教授 伊藤滋氏により「21世紀の街づくり」と題して、都市計画の現状の問題点を挙げ、施設の立地を法律にて決定できるのが都市計画であるという観点から、文化的風土的教養を持った都市開発に携わる技術者のあり方をより噛み砕いた説明で会場の笑いをとりながら講演戴いた。その後、一般講演として建設省都市局都市再開発防災課 建設専門官 武政功氏より「地球温暖化対策における地域冷暖房整備の位置づけ」と題して、建設省としてのエネルギー関連施策の概要と各施策に対する金融/税制上の優遇処置等の説明があった。一般講演の二番目としてこの11月から名称を住宅・都市整備公団から新たにした都市基盤整備公団 都市整備部 再構築事業課長の西岡誠治氏から公団の今までのあゆみ及び再開発事業としての地域冷暖房との関わり合い、新しい公団としての今後の目標を「都市基盤整備公団が行う新たな街づくり」と題してOHPを使用して具体的に講演戴いた。

休憩を挟み後半は都市再開発における事例紹介として二例の広域熱供給ネットワークの調査報告の紹介が行われた。

一例目は大阪大学大学院工学研究科環境工学専攻 助教授 下田吉之氏より「広域熱供給ネットワークと大阪」と題して、大阪地区における地域冷暖房の導入実績と今後の導入可能性について平成9年度及び10年度の調査結果をもとに講演戴いた。また、大阪地区の熱供給ネットワークの可能性を建物の建替を契機に導入していくケーススタディーを高温系と低温系の二つのシステムから併せて講演戴いた。

二例目は当協会にて今年3月と4月に行われた北欧及び東欧の地域冷暖房事情、特に都市排熱利用広域ネットワーク状況の調査報告を「都市排熱利用広域ネットワーク事情(欧州の視察を通じて)」と題して、清水建設株式会社エンジニアリング本部企画管理部部長 金島正治氏より講演戴いた。ゴミ焼却排熱主体のネットワークとコ・ジェネ排熱主体の相互融通プラントの大きく二つのシステムについて詳細に説明が行われた。講演の最後には早稲田大学建築学科教授 尾島先生からヨーロッパのネットワークを日本に直接当てはめることは難しいが、ぜひ当協会が中心となって日本の熱供給ネットワークの一案を出して頂きたいとまとめて戴いた。

最後に、当協会前島忠文専務理事より閉会の辞が行われ、21世紀を目の前にした第6回DHCシンポジウムの幕を閉じた。

